

事務事業名	子ども議会運営事業				担当	教育委員会 生涯学習課 女性青少年係		
政策名	F	市民の知恵と夢で拓くみんなのまちづくり			増補版施策名			
施策名	3	開かれた市政の推進			<input type="checkbox"/> 実施計画上の主要事業			
関連個別計画					事業期間	<input type="checkbox"/> 単年度のみ		
法令根拠						<input type="checkbox"/> 単年度繰返（開始年度 平成14年度～）		
予算科目	1. 一般会計	10. 教育費	4. 社会教育費	1. 社会教育総務費		<input type="checkbox"/> 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）		
事業概要	<p>小中学生を議員に任命し、市政への興味と関心を深め、子どもの目から見た市政への夢のある提言を求め、市議会の仕組みを理解してもらう目的で開催している。</p> <p>小中学校児童生徒が隔年で対象となり（平成29年度は中学生対象）、毎年8月に開催する。</p> <p>小学校児童：6年生対象 中学校生徒：2年生対象（H29から全学年から2年生対象）</p> <p>子ども議員数：21名（内議長3名、質問議員18名）</p> <p>質問時間3分以内/人。</p> <p>子ども議会開催後、「子ども議会感想文集」を学校に配布している。</p>							

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）		⑤ 活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移																																																
29年度実績 打ち合わせ会2回、答弁書打ち合わせ1回。 中学生を対象に開催 議員21人（議長3人・質問数18）		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 会議開催数</td> <td>回</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> <td>3</td> </tr> <tr> <td>イ 質問数</td> <td>件</td> <td>22</td> <td>17</td> <td>18</td> <td>18</td> <td>18</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	ア 会議開催数	回	3	3	3	3	3	イ 質問数	件	22	17	18	18	18	ウ							エ							オ						
名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																												
ア 会議開催数	回	3	3	3	3	3																																												
イ 質問数	件	22	17	18	18	18																																												
ウ																																																		
エ																																																		
オ																																																		
30年度計画 市内小学生を対象に開催予定																																																		
② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等		⑥ 対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移																																																
市内の小中学生		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 中学生生徒数</td> <td>人</td> <td></td> <td>2,308</td> <td></td> <td>788</td> <td></td> </tr> <tr> <td>イ 小学6年生数</td> <td>人</td> <td>795</td> <td></td> <td>783</td> <td></td> <td>755</td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	ア 中学生生徒数	人		2,308		788		イ 小学6年生数	人	795		783		755	ウ							エ							オ						
名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																												
ア 中学生生徒数	人		2,308		788																																													
イ 小学6年生数	人	795		783		755																																												
ウ																																																		
エ																																																		
オ																																																		
③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか）		⑦ 成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移																																																
小中学生に議会の仕組みを理解してもらい、市政への関心を深めてもらう。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 市政に関心を持った児童生徒の割合</td> <td>%</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	ア 市政に関心を持った児童生徒の割合	%	100	100	100	100	100	イ							ウ							エ							オ						
名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																												
ア 市政に関心を持った児童生徒の割合	%	100	100	100	100	100																																												
イ																																																		
ウ																																																		
エ																																																		
オ																																																		
④ 結果（どんな結果（上位施策）に結びつけるのか）		⑧ 上位成果指標（結果の達成度を表す指標）の推移																																																
小中学生に議会のしくみを理解してもらい、市政への関心が深まる。		<table border="1"> <thead> <tr> <th>名称</th> <th>単位</th> <th>26年度(実績)</th> <th>27年度(実績)</th> <th>28年度(実績)</th> <th>29年度(実績)</th> <th>30年度(見込)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 市政への理解と関心が高まった児童生徒の割合</td> <td>%</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> <td>100</td> </tr> <tr> <td>イ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>ウ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>エ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>オ</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>							名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)	ア 市政への理解と関心が高まった児童生徒の割合	%	100	100	100	100	100	イ							ウ							エ							オ						
名称	単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																												
ア 市政への理解と関心が高まった児童生徒の割合	%	100	100	100	100	100																																												
イ																																																		
ウ																																																		
エ																																																		
オ																																																		
(2) 総事業費の推移		単位	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(実績)	29年度(実績)	30年度(見込)																																											
投入量	事業費	財源内訳	千円	0	0	0	0																																											
		国庫支出金	千円	0	0	0	0																																											
		県支出金	千円	0	0	0	0																																											
		地方債	千円	0	0	0	0																																											
		その他	千円	0	0	0	0																																											
	一般財源	千円	102	32	39	33	70																																											
	事業費計(A)	千円	102	32	39	33	70																																											
	人件費	正規職員従事人数	人	1	1	1	1																																											
		延べ業務時間	時間	167	167	167	167																																											
		人件費計(B)	千円	705	700	694	693	693																																										
トータルコスト(A)+(B)		千円	807	732	733	726	763																																											

(3) 事務事業の環境変化・市民意見等

①この事務事業を開始したきっかけは何か？ いつごろどんな経緯で開始されたのか？	小中学生を議員に任命し、市政への興味と関心を深め、子どもの目から見た市政への夢のある提言を求め、市議会の仕組みを理解してもらうことを目的として平成14年度より開催された。
②事務事業を取り巻く状況（対象者や根拠法令等）はどう変化しているか、開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったのか？	市議会定数に合わせ、子ども議員数も28名から22名に変更したが、合併に伴い議員数を28名に変更した。 平成27年度から、市議会定数に合わせ、28名から21名に変更した。
③この事務事業に対して関係者（住民、議会、事業対象者、利害関係者等）からどんな意見や要望が寄せられているか？	議員になった子どもたち、保護者、教員からとても良い経験になったという感想が寄せられている。 議会出席関係者、ケーブルテレビを視聴した方々からも良い評価が寄せられている。

2. 1次評価の部 *原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 ・この事務事業の目的は、市の政策体系に結びつくか？ ・意図することが結果(上位施策)に結びついているか？	<input type="checkbox"/> 結びついている <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市政に子どもの視点を反映することは、開かれた市政の推進に結びつく。
	②公共関与の妥当性 ・なぜこの事務事業を市が行わなければならないのか？ ・税金を投入して達成する目的か？	<input type="checkbox"/> 妥当である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市内の児童生徒が、市政に興味を持ち関心を深めることは、教育の一環である。
	③対象と意図の妥当性 ・対象を限定・追加すべきか？ ・意図を限定・拡充すべきか？	<input type="checkbox"/> 適切である <input type="checkbox"/> 対象を見直す必要がある <input type="checkbox"/> 意図を見直す必要がある 市内全校を対象としている。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるか？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	<input type="checkbox"/> 向上余地はない <input type="checkbox"/> 向上余地がある 実施の結果、市民、保護者、学校等から好評を得ている。
	⑤廃止・休止の成果への影響 ・事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	<input type="checkbox"/> 影響がある <input type="checkbox"/> 影響がない 子どもたちが市政に関心を持てる機会が少なくなる。
	⑥類似事業との統合や連携の可能性 ・他に、類似の形態の事務事業はないか？	<input type="checkbox"/> 類似事業がある(類似の事務事業名を記載) <input type="checkbox"/> 類似事業はない
	・類似事業がある場合、その事業と統合したり連携を図ることができるか？	<input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携ができる <input type="checkbox"/> 他の事業と統合・連携できない
効率性評価	⑦事業費の削減余地 ・成果を下げずに事業費を削減できないか？ (仕様や工法の適正化、住民の協力など)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 事業開催のための必要最低限の経費である。
	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地 ・やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？ ・成果を下げずにより正社員以外の職員や委託でできないか (アウトソーシングなど)	<input type="checkbox"/> 削減余地がない <input type="checkbox"/> 削減余地がある 学校との連絡調整が主であり、必要最低限の人件費である。
公平性評価	⑨受益機会・費用負担の適正化余地 ・事業の内容が一部の受益者に偏って不公平ではないか？ ・受益者負担が公正・公平になっているか？	<input type="checkbox"/> 公正・公平である <input type="checkbox"/> 見直し余地がある 市内すべての小中学校が対象なので、公平である。

3. 改革・改善方向の部

(1) 改革の方向性(改革案・実行計画) <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 見直し(<input type="checkbox"/> : 目的妥当性 <input type="checkbox"/> : 有効性 <input type="checkbox"/> : 効率性 <input type="checkbox"/> : 公平性) <input type="checkbox"/> 統合 <input type="checkbox"/> 継続	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
		削減	維持	増加																				
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 改革、改善を実現する上で克服すべき課題は何か？それをどう克服していくか？																								

4. 事務事業の2次評価結果(事業の総括と事業の方向性)

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 <input type="checkbox"/> 記述説明不足(説明責任不充分) <input type="checkbox"/> 評価内容が客観性を欠く <input type="checkbox"/> 評価内容は客観的と言える	(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1"> <tr> <td></td> <td></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>			コスト					削減	維持	増加	成果	向上				維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上																							
	維持																							
	低下																							
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ②有効性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ③効率性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり ④公平性 <input type="checkbox"/> 適切 <input type="checkbox"/> 見直し余地あり																								
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 <input type="checkbox"/> 廃止 <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 目的絞込み <input type="checkbox"/> 目的拡充 <input type="checkbox"/> 事業統廃合 <input type="checkbox"/> 事業のやり方改善 <input type="checkbox"/> 予算削減 <input type="checkbox"/> 予算増大 <input type="checkbox"/> 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項																							